

# 人工知能は人間を超えるか



## 49%の仕事が将来代替可能に



速報新聞

### キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

### 新聞部

彦根市金亀町4番7号

▲青木校長先生はiPadを用いてさまざまなことを行われた。

11月17日、本校図書館でスーパードイスマシジョンが開催された。今回は「人工知能は人間を超えるか」がテーマで20名以上の生徒が参加し、過去最大規模となった。

青木靖夫校長先生は今回のスーパードイスマシジョンのテーマを「人工知能は人間を超えるか」にした理由を「昨年12月に野村総合研究所が『10〜20年後には日本の労働人口の約49%が就いている職業において人工知能やロボット等で代替可能になる』との研究結果を発表し、そのことを知ったことがきっかけ」と明かされた。

青木校長先生はまず、自らのiPadを使用して「GHI」や「Google翻訳」のデモンストラーションを行い、その利便性を説明すると同時にまだそれらが発展途上であることを示された。しかし青木校長先生は「確かに全体としてはまだ発展途上であるが、将棋やチェスなどの一部の分野においては人間と並んできて」と説明され、2045年頃に到来するとされているシンギュラリティという人工知能が人間の知能を上回る未来につ

いて解説された。その上で人工知能が今後人間の行う仕事を代替し、雇用が減るという予測について生徒に意見を求められ「人間にしかできない仕事が残ると思う」「仕事がなくなるのは不安」などの多様な意見が出た。そして青木校長先生は「自動化しやすいものとしにくいものの違いは創造性と社会的知性を含んでいるかどうかで、その意味では先生という仕事は自動化が非常に難しいと思う。しかし代替されない職業でもある程度は影響を受けるだろう」と自らの意見を述べられた。最後に青木校長先生は「これからの高校生には議論力が必要だ。今は私が主催して議論しているが、生徒たちだけでさまざまな議論を交わしてほしい」とメッセージを送られた。

## シンギュラリティとは

シンギュラリティは技術的特異点と訳され、人工知能が自分の能力を超える人工知能を自ら生み出せるようになる時点を指す。人工知能がさらに賢い人工知能を創り、それがさらに優れた人工知能を生み出すことを無限に続けることで、圧倒的な人工知能が突然誕生すると考えられている。シンギュラリティの先は誰にも予測できず、人間には到底太刀打ちできない人工知能ができる可能性もある。人工知能の今後についてしっかりと考える必要がある。